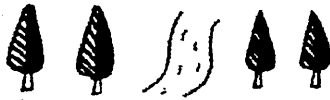


— やんば —  
**STOP! THE ハッ場ダムニュース**



**IN 埼玉**

No. 9 2006.6.14.

ハッ場ダムをストップさせる埼玉の会 代表 藤永知子 TEL/FAX 048-825-3291

今こそ、利根川流域に住む市民の声を結集しよう！！

6月3日～4日に、利根川に沿って沼田から印旛沼まで(渡良瀬遊水地、関宿、利根大堰、稲戸井調整池など)利根川流域で活動する市民団体の皆さんと共にバスで見学してきました。

「坂東太郎」と呼ばれる利根川の豊かな水の恩恵をこの流域に住む私たちは受けつつも、川だけでなく川周辺の自然が人間の愚かさ故に痛めつけられ、失われようとしている実態を見てきました。200年に一度の洪水に対応する「基本高水流量 22000 m<sup>3</sup>/秒」を決めた国の方針が、利根川を支配し、今後十数基のダムを作らないと完成しない実現不可能な計画をも生み出し、果てに無駄なハッ場ダムという大型公共事業をつくっている現実があります。そこで同じ流域に暮らす住民たちで連帯して国へ市民の意見を反映していきたいと今回の交流を兼ねた利根川ツアーとなりました。今後さらに、もっと多くの市民や市民グループと一緒に行動していきたいと考えています。

さて一都5県で、進められているハッ場ダム住民訴訟は、早や各地で6回～8回目の裁判へと進んできています。各地での裁判で進行度合いも内容も多少違いますが、定期的な全体弁護団会議を開き意見交換しながら、ハッ場ダムへの公金支出の違法性を訴えるための書面を次々と出し本論に入りつつあります。

埼玉では8回目の口頭弁論期日を6月14日に迎えます。すでに利水の準備書面を提出しており、前回の4月19日の裁判では治水について、川井弁護士がパワーポイントを使いながら以下のように陳述しました。

- ① カスリーン台風が再来した場合、ハッ場ダムの治水効果はゼロである。
- ② 利根川治水計画によって200年に一回の降雨による洪水に対応するために定められた基本高水流量の22,000 m<sup>3</sup>/秒に現実性が無く、この計画自体破綻している。
- ③ 河道整備をしていくことで、十分洪水に対応でき、ダムを作る必要性がない。

今回の裁判(6月14日)には、ダム建設予定地の危険性について弁護団団長の高橋弁護士が、陳述します。県民のみなさん、是非さいたま地方裁判所で、傍聴して下さいますようお願い致します。

ハッ場ダムをストップさせる埼玉の会 藤永知子

## 八ッ場ダム住民訴訟：第7回口頭弁論期日のご報告

弁護士 野本夏生

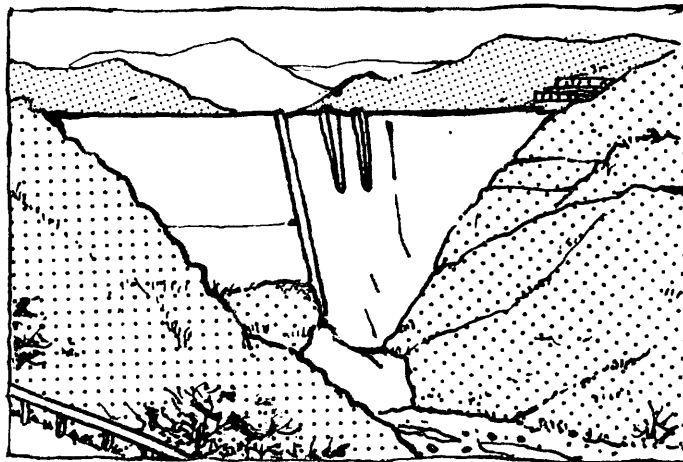
今回、原告側からは、治水面上において八ッ場ダムが果たす役割は非常に小さいこと、より端的に言えば、ムダな巨大施設にしかならないことを詳細に論じた準備書面を提出しました。そして、川井理沙子弁護士が、この準備書面の要旨を、パワーポイントを使って解説しました。ダム計画の前提となる洪水流量の設定が非常にいい加減なものであること、吾妻川上流にある八ッ場ダムを使っても氾濫が想定されている区域の流量を有効に調整することはできないことなどをグラフ、図表を使って丁寧に説明しました。傍聴されていた皆さんにも好評だったのではないのでしょうか。

被告側からは、原告側が求めた水利権に関する釈明に回答すると同時に、「本案前抗弁」を全面展開した準備書面が提出されました。本案前抗弁とは、原告側の訴えは訴訟要件を欠くので実質審理に入らずに訴訟を打ち切るべきだということです。群馬、茨城、千葉など他の地域の裁判では、「八ッ場ダムの建設計画は国（国交省）が決めたもので、この国の決定に明白な誤りがない限り県は負担に応じざるを得ないのだから、国の決定に明白な誤りがない限り、この問題を住民訴訟で取り上げることはできない」という本案前の抗弁を被告側は積極的に主張してきています。埼玉では本格的にこの主張がなされたのは今回が初めてですので、次回以降、しっかりとした反論を準備していかなければなりません。

裁判所からは、前回までに問題となっていたこれ以外の本案前抗弁に関する原告、被告双方の主張を整理し、さらにこれに裁判所の見解を付け加えた論点整理メモが示されました。裁判の争点がどこにあるのか、裁判所がどのような点に問題意識を持っているのかが明確になるので、今後、より一層充実した審理が行われることが期待されます。パワーポイントを使った要旨の解説についても裁判所は引き続き理解を示してくれていますので、ぜひ法廷に足をお運びください。



▲吾妻溪谷



滝沢ダム

## 0605 滝沢ダム見学報告：

2006年5月29日 河登一郎

5月25日、民主党埼玉県議員団の滝沢ダム視察に同行させて頂きました。一行は、民主党県議2名・県当局2名・当会6名の総勢10名。視察の主目的は、同ダムに試験湛水開始後周辺地盤に数ヶ所クラックが入ったので、実態を視察することでした。

西武秩父駅から小型バスに約1時間揺られてダム現場に到着。現地では、インフォメーション・センターでダムの概要に関する説明を受け、その後数ヶ所の現場を見ながら、数々の疑問点について質問しました。現場事務所の方は率直に説明して下さいました。

以下はその要約です。

### 1. 事実関係：

- (1) このダムは、荒川の支流中津川を流域とする有効貯水容量 5800 万 $\text{m}^3$ の比較的大型ダム。目的は、ここでも利水・治水・河川環境の保全?と謳われている。  
総工事費は、付け替え道路などの付帯工事を含めて2320億円。
- (2) 既にダム本体は完成し、昨年10月1日に試験湛水を開始したところ、ダム本体の上流1.5km周辺(浜平地区：左岸)で地滑りによるクラックが4ヶ所発見されたので、11月2日に湛水を中止した。その後、クラックの周辺に地盤変化をチェックするポイントを30ヶ所、伸縮計を10台設置して監視を続けている。  
クラックの現場は見せて貰えなかったが、現在までのところ地盤変化などの異常は見られないとのこと。
- (3) 地滑り対策として、「押え盛土工法」を進めていた。これは、地滑りを防止するために、川床から一定の高さまで土砂を固めて積み上げる工法で、土量50万 $\text{m}^3$ 、追加工費39億円。現在一日24時間で突貫工事を進めており、今秋までに終了予定。
- (4) その後更に試験湛水や仕上げ工事を行って2008年3月までに完成の予定である。

### 2. 評価：今回の見学で感じたことを以下報告します。

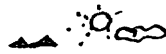
- (1) 視察の最大の目的である、地滑り・クラックの原因について、現場では湛水の影響と考えており、その為に試験湛水を中止し、50万 $\text{m}^3$ もの大量の「押え盛土」を

39 億円かけて進めていました。

- (1) この地帯一帯はもともと地滑りが発生しやすい場所との説明でしたが、日本中のダム多くは似たような地形にあるわけだから、ダムへの貯水の影響で周辺に地滑りや地盤変化が起きているケースは、奈良県滝沢ダム・群馬県下久保ダムなど以外にも相当あるのではないのでしょうか。
- (2) ダム工事の最終段階である試験湛水で、「想定外」のクラックが生じ、その対策としての「押え盛土」工事に 39 億円もかけ、予算枠を変えずに「他の工事でのコストダウンで対応できる」という説明に違和感を覚えました。既にダム本体工事を含めて殆どの工事は終了しており、これからのコストダウンの余地は殆どないはずですが、それが可能であることは、当初枠の 2320 億円がよほど余裕を持った潤沢な予算だったと推測できます。
- (3) 仮に想定外のクラックが生じなかったら、かなりの金額 (39 億円 +  $\alpha$ ) は余っていたはずですが、完成した公共事業で、余剰予算を国庫に返戻した話はあまり聞いたことがありません。その場合、別の名目で余った予算を使い切ってしまうのでしょうか。こんなところにも、税金を浪費する仕組みがかくれているようです。

帰りは特急秩父号で所沢へ行き、総括と意見交換と交流で締めくくりました。これもまた意義深い時間でした。県議・行政・現場の皆さま、ありがとうございました。

### 滝沢ダムを見学して思うこと



田中清子

奥秩父連邦を縦走して、十文字峠から秩父側へ下山すれば栃本部落です。そこで、すでに完成している二瀬ダムに続いて、滝沢ダムが出現するのです。奥秩父の山村では、ここ何年かの間に自然も人々の暮らしもダム建設によってすっかり様変わりしてしまいました。滝沢ダムの完成によって、112 戸の人たちが移転させられたと聞きましたが、水没予定地周辺には、その痕跡は何もありません。

昨年秋、試験的に滝沢ダムに湛水したところ、かつての集落の里路にクラックが発生したのだそうです。万全の対策をとっていたはずでも生じたトラブル。現在、突貫工事で地すべり対策の土盛り工事が進行中です。谷底でダンプカーとショベルカーが忙しげに作業している光景に不安感を覚えたのは、私一人ではなかったでしょう。おまけにこの地すべり費用 39 億円は、諸費用を削減して捻出すると聞き、驚き且つあきれてしまいました。

予想外のトラブルが発生しても、それに対処できる予算はあらかじめ総事業費に組み込まれているということでしょう。安全対策がとても安易に行われているのではないか、予算の組み方が非常に杜撰なのではないか、この 2 点が気になって仕方ありません。

滝沢ダムや大滝ダムのことから、ハッ場ダムの地質上の危険性について警告を発しているように思われ、無視してはならないと今回の見学を通して実感しました。

# 国交省中和工場はハッ場ダムを死の川から蘇らせたか？

報告 高杉 晋吾

ハッ場ダムは、1956年（昭和31年）、当時建設省から群馬県土木部長として派遣された落合林吉さんが、魚が住まず、鉄もコンクリートもぼろぼろに溶けてしまう死の川「吾妻川」を、中和工場システムを作り上げて蘇らせたという話が社会的に通用していますが、私はこの落合林吉の神話は虚構だということを明らかにしたいと思います。

第一の理由はこうです。昨年、東電が、吾妻漁協と、阪東漁協に合計700万円の漁業補償を支払いました。なぜこんな補償をしたのかと言えば、吾妻川の鮎がその前の一年間まったく釣れなかったからです。東電は、吾妻川の上流から下流まで、発電所の導水管を通じて吾妻川を死の川にする強酸性水のほとんどを、発電用に採取して東電の導水管を通じて、利根川との合流点である佐久発電所まで送っています。佐久発電所で利根川の水と混ぜて、希釈し利根川に放水しています。吾妻川の酸性水のほとんどが東電の発電用に吾妻川の上流から下流まで東電の導水管を流れているのです。

この導水管への酸性水の取水と中間の右岸からの<sup>なまかわ</sup>温川と熊川などの中性水による希釈などで吾妻川が死の川から蘇っていたのです。こういう状態の時に、東電がある発電所の発電機が老朽化したので、修繕するために発電機を取り外しました。そのときに導水管を通じて水が流れていたのでは発電機を取りかえ修繕することが出来ませんから、導水管の水を止めました。導水管を流れていた水は吾妻川に流れました。すると今まで魚が住んでいた吾妻川の魚は死んでしまうか逃げ出してしまい、吾妻川は死の川に逆戻りしたのです。

では「中和工場や品木ダムが酸性水を一時も休まずに中和しているから、死の川が蘇ったのだ」という国土交通省の説明はどうなるのでしょうか？東電が酸性水の採取をストップしたら死の川に逆戻りしたのでは中和システムは何の役割を果たしていたのだろうかと言う疑問が生じるのは当然です。

吾妻川に非常に多い酸性水の川の中で中和工場と品木ダムは湯川、大沢川、谷沢川と言う三つの小河川を中性化しているだけです。上流から万座川、今井川、赤川、遅沢川、白砂川、などの酸性、ないしは強酸性河川は何も対策が施されていないのに、まったく別の河川に設置された中和工場が全部の河川を中性化できるはずがないのは当然です。吾妻漁協と阪東漁協の漁業補償の東電への要求は、吾妻川を熟知している漁民が、吾妻川の死の川をよみがえらせたのが、中和工場ではないと言うことを証明してしまったのです。

では、次に「中和工場が死の川を蘇らせた」という神話の第二の虚構を明らかにしましょう。（つづく）



八ッ場・青葉ツアーに参加しました。



星野 真理

ときどき裁判を傍聴するうちに、どこか遠い場所ではなくて、地続きの場所である「八ッ場」を実感したいと思うようになりました。また、高木仁三郎さんの最後の著作のモデルとなった場所でもあることにも、心惹かれていました。

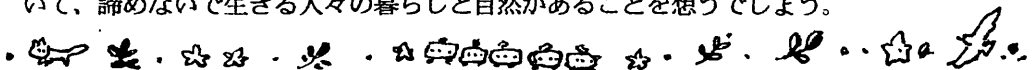
「ダムに沈む温泉」川原湯温泉は意外に近い。浦和駅のホームで、ときどき「特急草津」が通過するのを待ちながら、「草津か、温泉に行くのか」と思いながら眺めていましたが、その電車に乗れば、2時間で川原湯温泉に行くことができるのでした。800年の歴史のある温泉街は、まるで時間が止まったような、静かで鄙びた雰囲気がありました。露天風呂から眺める溪谷の新緑の景色はすばらしく、掛け流しの柔らかな湯はもったいない位豊かです。都会の喧噪に疲れた人が訪れるには、何て素晴らしい所でしょう！

将来計画がたたないことから新築や大規模な増改築はされていないものの、丁寧に手入れをされた床や柱の美しさに、将来が見えない中にありながらも、建物や家財の手入れをする人の心の豊かさ、強さを感じました。宿の2階の部屋の窓から覗けば、目の前に喫水線（ここまでダムの水がくるという標）が迫る日常なのに・・・

ダムの話が起こったのは、54年前という。街中がダム反対の熱気に溢れた時もかつてはあったようです。老人から、コンクリートの流し込み枠の中に座り込んで、コンクリートミキサー車を追い返した武勇伝を聞きました。でも、私が生まれる前から、ずっとダムに振り回されてきたこの街は、今はすっかり諦観に満たされているように感じました。街も溪谷も「今さら」と言っているようにも感じられました。50年以上もの間、ダムに振り回されてきた人々のことを思い、その長い年月の間、何も知らなかった私を思うと、本当にもうしわけない気持ちになってきます。地面も水も続いているのに、人々だけは繋がっていない。川上と川下で人々は分断されている。ワイドショーでは代替地の小学校の設備を、まるで税金の無駄使いのように取り上げて、都市の住人のルサンチマンをかき立て、現地の人々の神経を逆撫でする。

ダムができたなら、この美しく雄大な溪谷の自然は失われるでしょうし、この温泉街のひなびた良さもなくなってしまうでしょう。でも、ここまでダムに翻弄され続けた人達にとって、簡単にダム反対だけでは、今さらと、怒りと拒絶の気持ちしか持ってもらえないことでしょうか。どんな違った将来がイメージできるのか。下流の私に何ができるのだろうか。美しい自然と柔らかなお湯をしみじみ感じながら、考えてしまいました。

まず、地続きの地で生きている人々のことを忘れない、また訪れる、そんなことからやってみたいと思います。これからは、駅のホームで、通過する「特急草津」を見かけるたびに、この線路の先の地続きの場所に、静かな小さな駅があって、ムササビやカモシカがいて、諦めないで生きる人々の暮らしと自然があることを思うでしょう。





嶋津 暉之

## (7) 高度処理の問題

今から二十年近く前のことだが、ある写真週刊誌が「東京の水が危ない」というタイトルで五回の連載を行った。その要点は次のようなものであった。

① 水道水中の発がん性物質の多くは浄水場の前塩素処理により、生成されるものであるから、高度処理、すなわち、オゾン・活性炭処理に切り替えるべきである。② オゾンや活性炭を使う高度処理は西ヨーロッパでは多くの浄水場ですでに導入されている。③ その高度処理技術がなぜ、東京都をはじめ、各都市の浄水場に導入されないのか、ここに日本の水道行政の後進性がある。

この写真週刊誌のキャンペーンを受けたからというわけではないだろうが、その後、厚生省が高度処理に対する補助制度を設け、東京都水道局が金町浄水場を皮切りに、高度処理を導入する工事をはじめた。東京都の浄水場ではすでに金町、三郷、朝霞の三つの浄水場に高度処理が導入されている。現在、三郷浄水場で導入工事が進められていて、その後、東村山浄水場にも導入されることになっている。

東京都浄水場に導入されている高度処理施設はオゾン処理と生物活性炭処理である。浄水場の全処理水量の半分を高度処理し、通常処理水とブレンドして給水するようになっている。金町浄水場を例にとれば、一日52万 $m^3$ の高度処理施設の建設に約280億円の費用が投じられた。その効果をトリハロメタンについてみると、通常処理水の平均濃度が30ppb程度であるのに対して、高度処理を行うと、6割削減され、12ppb程度になる。ただし、通常処理水とブレンドするので、その効果は半減され、給水のトリハロメタン濃度は21ppb程度である。このように高度処理はその導入に高額な費用を必要とするけれども、その効果は意外と限られたものなのである。

埼玉県の新三郷浄水場でも高度処理導入の工事が今年度から始まる。処理水量は全量の36.5万 $m^3$ /日、総事業費は163億円、平成22年度からの運用開始となっている。

高度処理には、この費用対効果という問題だけではなく、水道の水質改善対策の方向性の問題もある。水道水中のトリハロメタン等の発がん性物質の多くは浄水場で加える塩素によって生成されるものだが、その原因物質は原水に含まれる汚濁物質である。原水中の汚濁物質と塩素が反応して

発がん性物質がつけられるのだから、原水が汚濁していなければ、塩素処理で発がん性物質が生成されることはない。発がん性物質の対策の基本は原水の汚濁をいかに少なくしていくかにつける。

この点で、高度処理の導入が常識化している西ヨーロッパでは、連載(5)で述べたように、より良質な原水の確保に真剣に取り組んできている。それでも、十分に良質な水源が得られない場合に、高度処理を行うということであって、最初から高度処理の導入ということではない。

さらに、水道水源の水質を良くしていくという目的があればこそ、河川の浄化が進められるのであって、高度処理の導入に安住しては、河川の汚濁の進行を許してしまうことにもなりかねない。ハツ場ダムがもたらすであろう水質悪化についても、高度処理の導入はそれに対する危機感を鈍らせてしまうことになる。

## インフォメーション

### ★ライブ&トーク；加藤登紀子となかま達が唄う「ハツ場いのちの輝き」

10月9日(祝日) 15:00~17:00 ・日本青年館にて

- ・ゲスト：永六輔(旅行作家)、野田知佑(カヌーイスト)、大熊孝(新潟大学工学部教授)池田理代子(声楽家、漫画家) その他
- ・チケット(自由席3000円S席5000円)販売中



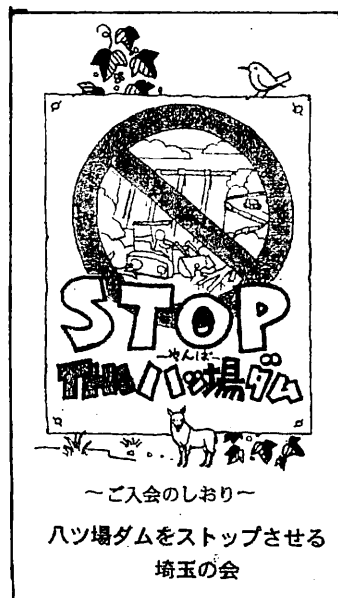
会費・カンパの振込みは下記の口座へお願いします

振込先(郵便振替口座)

00180-2-334064

ハツ場ダムをストップさせる埼玉の会

入会のしおりが出来ました。→  
御活用ください。



## ハツ場ダムをストップさせる埼玉の会

〒330-0074 さいたま市浦和区北浦和3-12-3-601

藤永 知子 方

TEL/FAX 048-825-3291

☆ Email-taikazann@hotmail.com